

令和3年8月3日

令和3年度第4回世界農業遺産等専門家会議
宮城県大崎地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 本地域は、生物多様性の保全に関し、非常に優れた取組が行われている。一方で、世界農業遺産の視点である、単に生物多様性が豊かであるというだけでなく、水や屋敷林(居久根)を管理することが生物多様性や農業生態系にいかに関与するかという観点も重要である。このような世界農業遺産の現代的な意義を意識して生きものモニタリング調査を継続していただきたい。
- 2 ツーリズムや6次産業化、大崎耕土ブランド認証制度が積極的に行われており、高く評価できる。今後は、その背景にある世界農業遺産的な価値、例えば農業生物多様性やランドスケープ、文化を含め、農業生産にどのようなプラスの効果を与えているかも併せて、ブランド認証や発信を行っていただきたい。これらが消費者に伝わり、生産者の経済的な利益や地域住民の誇りに繋がるような好循環が生まれることを期待している。
- 3 近年、全国で集中豪雨や台風、洪水等の異常気象が発生している。本地域においても、気候変動に対応していくことが必要である。本地域の伝統的な水管理システムや居久根等が気候変動に対してレジリエンスを持ち得るのかという点について適切に評価していくことが必要である。
- 4 コロナ禍においてもインターネットを活用した様々な情報発信が行われている点を高く評価する。本地域は他の世界農業遺産地域に対しても参考となる事例が多いため、今後も積極的な情報発信を行っていただきたい。

(以上)